



GYO-KAI News

2022年1月11日

新年あけましておめでとうございます。今年は寅年、しかも「五黄の寅」と言われる特別な年だそうです。中国が発祥の九星術と十二支の組み合わせで36年に1度回ってくる特別な年。「帝(みかど)」の要素をもった5黄土星は気高き頑固者、度胸もあるカリスマで、大物になる素質のある人が多いのだとか。女性が活躍する現代社会において1986年生まれのレディガガ、沢尻エリカ、石原さとみ、1950年生まれの和田アキ子さんなどまさに最強。気づいていない五黄の寅さんが近くにいたら教えてあげてください。眠れる虎が目を覚ますかもしれません(笑)。

コロナウィルスが年明けから猛威を振っています。南アフリカから始まったオミクロン株が日本に上陸し沖縄から本州に広がる勢いはまさに騎虎の勢い。極東の野に放たれた虎は第6波のうねりとなり押し寄せます。「虎に翼」とならぬように再度、感染予防を徹底しながら、治療方法のアップデートが必要です。



デルタ株からオミクロン株に置き換わっていることで中和抗体の効果が低下したことや、モルヌピラビル(ラゲブリオ®)が発売されたことで治療の流れが変わりました。

重症度別治療薬 (コロナウィルス感染症診療の手引き第6.1版一部改変)

軽症	中等症Ⅰ	中等症Ⅱ	重症
抗ウィルス薬	レムデシビル		
モルヌピラビル*1	*1: 重症化リスク因子のある患者に投与		
中和抗体薬*1	*1: 重症化リスク因子のある患者に投与		免疫抑制薬など
カシリビマブ/イムデビマブ*2	ステロイド		
ソトロビマブ	パリシチニブ		
*2: オミクロン株による感染には使用しない			
ヘパリン			

以下が変更点

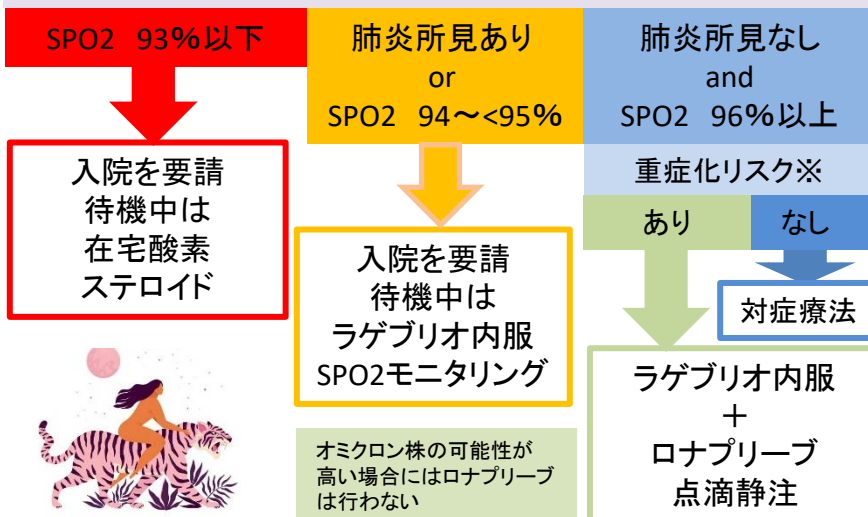
★カシリビマブ/イムデビマブ(ロナプリーブ®)はオミクロン株感染には使用しない。

★モルヌピラビル(ラゲブリオ®)は発症5日以内の軽症・中等症Ⅰの患者(酸素を必要としない患者)に投与することができる。

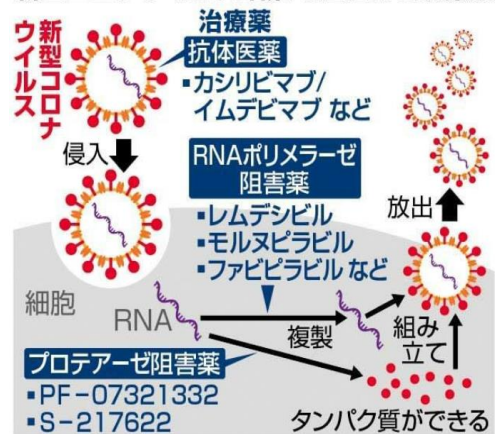


現状ではコロナと診断されてもオミクロン株かどうかの判定には数日を要します。デルタ株に対するロナプリーブ®の重症化予防は70%以上でラゲブリオ®より優れます。そのため、オミクロン株かどうかかわるまでの治療は、以下のように行うべきなのではないかと考えます。

コロナ抗原陽性・PCR陽性 発症7日以内



新型コロナウイルス増殖の仕組みと治療薬



モルヌピラビル (ラゲブリオ®) MERCK

コロナウィルスRNAポリメラーゼ(複製に必要な酵素)に作用して配列変異を起こしてウィルス増殖を阻害。発症5日以内の治療開始で重症化(入院及び死亡)リスクが偽薬群に対して30%減少したとの報告。

パクスロビド Pfizer

抗ウィルス薬(PF-07321332)と、既存の抗HIV薬であるリトナビルとを組み合わせ合わせた合剤。国際共同第Ⅲ相試験で発症3日以内にパクスロビドを投与すると入院または死亡のリスクを89%減少したとの報告。日本でも採用される日は近いはず。

- ※重症化リスク 診療の手引き第6.1版参考
- 65歳以上
 - 悪性腫瘍
 - 慢性肺疾患(COPD 喘息を含む)
 - 慢性腎臓病
 - 糖尿病
 - 高血圧
 - 脂質異常症
 - 肥満(BMI 30以上)
 - 喫煙
 - 心血管疾患
 - 脳血管疾患
 - 肝疾患
 - 移植後免疫抑制状態